

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果表

大 学 名	京都工芸繊維大学
整 理 番 号	B07
構 想 名	OPEN-TECH INNOVATION ～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想では、京都工芸繊維大学の得意分野における研究の成果に加え、築き上げたネットワークを軸に、海外の一線級の研究者ユニットの誘致を行う等の交流を推進し、客観的に策定された「工織コンピテンシー」（専門性、リーダーシップ、外国語運用能力及び文化的アイデンティティー）の獲得を目指して、人材を育成するカリキュラム改革を行っている。目標としての「TECH LEADER」の養成、研究推進のための ASIAN HUB の形成、交流の場の設置など、コアとなる施策は概ね計画どおり実施されている。</p> <p>ガバナンス面においては、学長による学部長、研究科長の直接任命や意思決定機関等への外国人の参画など、組織改革、制度改革を進めている。大学間協定に基づく交流数は、海外コーディネーター教員による海外交流先の積極的な開拓により、日本人学生、外国人留学生ともに3年間で大幅に増加し、数値目標を大きく上回る成果を挙げている。海外派遣及び英語研修の実施等により、事務職員の英語能力における数値目標を達成している点も評価出来る。</p> <p>カリキュラム改革について、学部・大学院一貫グローバル教育プロジェクト「3×3制度に基づく教育プログラム」は学生にとって大きなメリットがあり、留学の機会もより柔軟に与えられることから、理工系のプログラムとして、その有効性に期待したい。また、国内初の工学分野におけるジョイントディグリープログラムをチェンマイ大学と開設した点は、先駆的であり、評価出来る。デザイン・ドリブン・イノベーションは、大学の特色がよく発揮され、地元企業とのセミナー等地域に密着した活動が行われており、地域産業のグローバル化にも貢献する取組であると言える。</p> <p>一方で、「TECH LEADER 指標」については、ルーブリックに基づく詳細な評価方法が提示されているが、具体的に、どのように学生を評価し、「工織コンピテンシー」「ディプロマ・ポリシー」に繋がっていくのかという道筋を明らかにする必要がある。</p> <p>外国語による授業科目数・割合及び外国語のみで卒業出来るコースの設置数は数値目標を達成しているものの、コースの在籍者数は現状では極めて少数である。また、外国語力基準を満たす学生数が学部、大学院ともに数値目標に達していないことから、最終目標の達成に向けた早急な対策を講じる必要がある。</p>	